



支部臨時大会には勤務外の全組合員が結集した。断固たる決意を表明する日暮支部長。（8月10日）

# 成田支部臨時大会開催

## 直ちに総決起行動に突入

支部通 信員・発

「成田支部第七回臨時大会」は、八月十日、十三時より運転区講習室において、支部組合員八四名が参加して開催された。また来賓として、本部より中野委員長、森内特執（交渉担当）、反対同盟より北原事務局長、関川前委員長、小川国彦衆議員議員、高橋正八郎県会議員が参加されました。

日暮支部長、北原事務局長、関川前委員長が檄をとばす

司会の高木副支部長から「本大会は重大な議題がありますので、皆様の見解をどしどし出してもらうようお願いいたします」とのあいさつを受けて開会しました。議長団に石井一雄、川越一夫両代議員を選出して議事に入り、あいさつに立った日暮支部長は、「今、国鉄当局が60・3に予定しているダイヤ改正は、新幹線の上野乗り入れ開業に伴って行われるものです。59・2ダイヤ改時には全国で五八の基地が統廃合されました。支部としても成田運転区廃止策動にどう取り組んでいくのか、今大会において具体的取り組みを決定していきたい。81・3ジェット闘争の意気をふりかえり、3・25五割動員達成をかちとった意義をふまえがんばっていきたい。支部一一名の英知をふりしぼって、ふりかかる火の粉はふりはらっていく」と述べました。

続いて、来賓の方々のあいさつを受け、北原事務局長は「成田運転区廃止攻撃は勤労千葉をつぶすものである。成田支部がつぶされなにかぎり他支部もつぶされない。当局の合理化に屈服することなく必ず勝利してもらいたい。共に闘いましょう」と述べられました。

衛するためには、勤労千葉としても万全な対策をたてる。60・3で現行ある基地を統廃合し、二万五千名の合理化をすると三万名の過員ができ、半分は運転関係である。千葉でも過員ができる。成田廃止は合理化ではなく、政治的要素が大である。将来展望においても廃止の要素がまったくない。勤労『本部』においても職場と仕事と生活を守る方針が、現場におろされたならば他の領分を取るほかない。国鉄労働者が大変な攻撃を受けている中で、東京だけ生き残ればよいという考え方である。この廃止策動は多くの矛盾をかかえ、背景は、業務レベルの問題ではなく政治的攻撃である。勤労東京と本社運転局が一つになり、勤労革マルのセクトのみを守り労働者を守るものではない。成田支部の皆さんが運転区防衛に怒りをもって立ち上り、積極的に取り組んでもらいたい」と、状況と背景について話された。

### 支部総決起行動を決定

つきに大畑副支部長より、一般経過報告がなされ、大須賀書記長が、(1)成田廃止策動とその狙い (2)組織の命運をかけて成田廃止を阻止せよ (3)勝つためには敗北主義をすてよう (4)廃止策動粉碎へ向けた取り組み、について明確に提起しました。質疑に入り、東京北局に一方的に我孫子線を担当させるのか、など切実な問題について発言があり、本部より答弁を受け確認しました。

大会宣言を採択し、日暮支部長の音頭で団結ガンバローを三唱し閉会しました。臨時大会で決定した具体的行動は次の通りです。

- ① 駅頭宣伝とピラマキ行動
- ② 抗議行動
  - (イ) 区当局に対する抗議の集団交渉
  - (ロ) 局長への抗議のハガキ行動
- ③ 地区労への支援、「廃止」反対署名行動
- ④ 土屋一派に対する追及行動
- ⑤ ピラ張り、カンパン、ステッカー行動

# 勤労「本部」革マルと国鉄当局の陰謀 成田運転廃止攻撃断じて許さない

革マル一体となった攻撃が成田支部にかけられている。十数年前に基地統廃合の攻撃がかけられたことがあった。私達は一つ一つ合理化の糸をたち切っていく、現在も存在している。大勢の力でやれば守り通せるんだ」と檄をとばしました。

### 成田支部を断固防衛する

中野委員長が決意

ついで、中野委員長があいさつされ「成田を防